

特定鳥獣5種の保護管理計画の考え方と効果的な進め方

④ニホンザル

さともん 特定非営利活動法人 里地里山問題研究所
代表理事 鈴木克哉

HP: <http://satomon.jp/> Mail: info@satomon.jp

1. ニホンザルの生息状況と被害状況

- ① ほとんどの都府県に生息し、分布域が拡大
- ② 群れでやってくるため、甚大な被害
- ③ 人馴れが進行し、生活被害も拡大する。精神的な被害も大きい動物。

2. ニホンザルの管理の考え方（群れ管理の必要性）

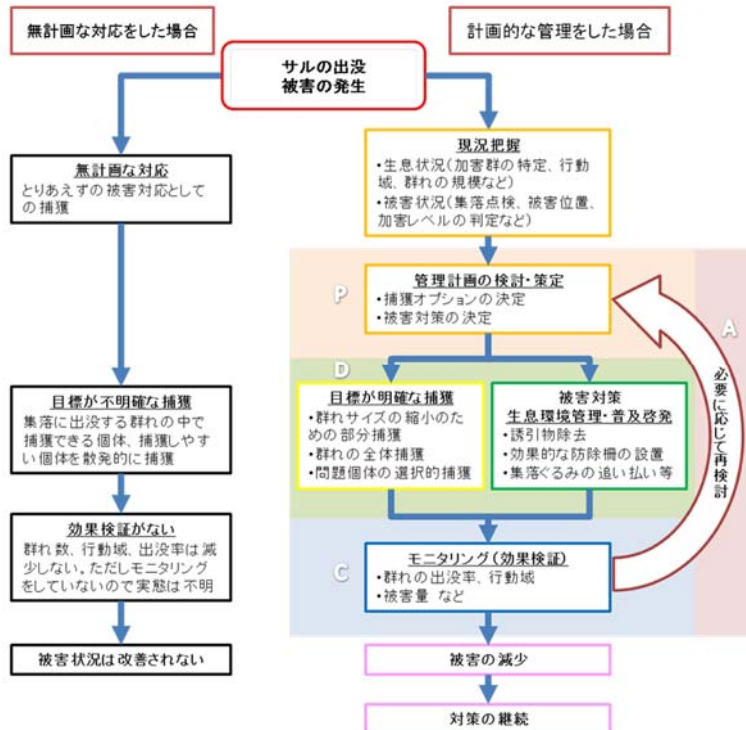
- ① 行動圏を持ち、群れによって特性（個体数・加害程度）が異なるため、群れごとの管理（群れ管理）が必要
- ② 個体数管理と被害管理の組み合わせが重要

3. 効果的な管理の進め方

- ① まず現況把握。大まかな把握からはじめて段階的に進める
- ② 「加害群半減」目標は「加害レベル半減」目標と読み替える
- ③ 優先的に対応が必要な群れには、発信機を装着して、行動域・個体数・加害レベルの把握
- ④ 個体数・加害レベルに応じた個体数管理手法（群れ捕獲、部分捕獲、選択捕獲）を検討する（目的・根拠を明確に）
- ⑤ 捕獲の成果は「見える化」する
- ⑥ 効果的な被害対策を普及する（有効な電気柵・追い払い体制整備等）
- ⑦ 農地・集落・群れ・地域個体群それぞれのスケールに応じた対策と役割分担、主体間連携を考える
- ⑧ 統合的な計画のもと、継続的にモニタリングし、PDCAで進める

4. まとめ

- ① 初期対応が重要（放っておけば加害レベルが進行する）
- ② 被害が進行している地域では、効果的な計画立案が必要（先進地や専門家のノウハウ活用）



さとまんのメルマガ会員（無料）募集中

※獣害対策に取り組む地域向けに獣害対策お役立ち情報の発信を始めます。
さともん HP から登録または info@satomon.jp までご連絡ください。